

## 横須賀芸術劇場少年少女合唱団「訪問コンサート」 in 衣笠ホーム

平成23年10月29日（土）15：00開演

特別養護老人ホーム「衣笠ホーム」

指揮：武田雅博      ピアノ：淵上千里

横須賀芸術劇場少年少女合唱団「訪問コンサート」は、横須賀芸術文化財団が普段なかなか劇場までお越し頂けない方々や地域の方々に合唱団の歌声を楽しんで頂きたいという思いから平成20年に始めたもので、今回で4回目となります。

今年は、10月29日に特別養護老人ホーム「衣笠ホーム」にて行いました。

入居者のお年寄りの方々約45名を前に施設内のナザレホールにて、小学6年生から高校3年生までの団員26名が約1時間のミニコンサートを行いました。



---

### 本番前のリハーサルです

---

当日は秋晴れの暖かなお天気。大楠山のふもとにある施設に到着して一息つく間もなく早々にリハーサルを行います。これまでこの日のために毎週木曜日の練習時間の一部を特別練習に充ててきました。本番まで短い時間しかない為、みんな集中して「明るい表情で」「気持ちを込めて」「丁寧に、ゆっくり」など先生の言葉に耳を傾けます。

---

## いよいよ本番です

---

施設の入居者の方々が座られている中を入場して並びます。

芸術劇場のホールで行う定期演奏会とは全く違い、お年寄りの方々1人1人の表情が手に取るように分かります。それだけに中には緊張の面持ちの団員も。指揮の先生の大きな「こんにちは」という挨拶の声で平常心を取り戻します。その後スタンドグラスが美しい、響きのよい空間で、馴染みある日本の名歌「早春賦」「浜辺の唄」「宵町草」その後は「歌のつばさに」「モーツァルトの子守歌」「別れの曲」「ハンガリアンダンス」などクラシックの名曲を含め全9曲を披露しました。曲の間には団員による楽曲解説も入り、なじみの曲がより解りやすくなりました。



---

## 交流タイム

---

団員たちが、それぞれお年寄りの方々の席に向かい、「何か知っている曲はありましたか？」「どんな歌が好きですか？」などめいめいが思い思いの質問をして入居者の方々とコミュニケーションを取りました。中には103歳になる入居者最高齢のおじいさんもいらっしゃいました。

曲を聴いていたお年寄りの方々の表情があちらこちらで楽しそうな表情に変わっていきま  
す。手を握りながらお話しすれば、会話は少なくとも握り返してくる手のぬくもりで感じ  
ることはたくさんあります。

そして最後は歌詞カードを見ながら「ふるさと」を全員で合唱。歌詞カードを目で追いな  
がら歌うお年寄りもいらっしゃれば、歌詞カードを握りしめながら、何も見ずに目を閉じ  
て歌っている方もいらっしゃいます。昔を思い浮かべながら歌っているようでした。ホー  
ル中に世代を越えた歌声が響き渡り、温かな交流となりました。



「最後にもう一曲歌いたと思います」と指揮者が一声かけると、歓声がわき起こり合唱  
団の定番曲「元気に笑え」を披露しました。

団員達の歌声に負けないうらい大きな手拍子を皆さんから頂き、楽しい時間があっという  
間に過ぎていきました。

お年寄りの方々からたくさんの笑顔と拍手と励ましを頂いた一日でした。

訪問コンサートを行う度に歌を通したコミュニケーションや音楽のもつ力の1つは、人々を元  
気に、そして笑顔にできることだと実感します。

横須賀芸術劇場少年少女合唱団では、音楽を通して地域に根ざした世代間交流を今後も継続し  
て行って参ります。